

日本音楽教育メディア学会
(JAPANESE MEDIA SOCIETY FOR MUSICAL EDUCATION)

JMSME News Letter

2025.1 vol.20

発行:令和7年1月15日
日本音楽教育メディア学会事務局
〒125-0062 葛飾区青戸 5-5-16
jmsmeoffice@gmail.com
ホームページ
<https://jmsme.org/>

謹賀新年

会長 飯泉祐美子



新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

私は、昨年8月の総会にて田中前会長より、会長の職を引き継がさせていただきました。後任として、力及ばぬ面が多々ございますが、「日本コンピュータ音楽教育ソサエティー」「日本コンピュータ音楽教育学会」として受け継がれてまいりました本学会の33年の歩みに続く舵取りを、責任をもって務めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

簡単に自己紹介をさせていただきます。

私は1990年大学院生時代の日本音楽教育学会の入会に始まり研究生活をスタートさせました。その後、保育者養成系大学教員となり、2000年代前半に様々な学会に入会しましたが、本学会の入会は大変後発で、2015年に入会させていただきました。当時は「メディア」という言葉にひかれて関心を持ち、入会前に研究会に参加させていただきました。研究会ではメディアを広く捉えていることがわかり、当時研究していた「こどものうたのリズム分析」に関する発表をするのにふさわしい学会であると考えたのが入会のきっかけでした。

最初の口頭発表は2016年2月だったように思います。「こどものうたのリズムパターン」に関する研究発表でした。

入会後は数回の研究発表と論集への投稿をさせていただきましたが、「楽譜」「フォーム」「歌詞」「可視化」等々、いろいろな媒体をメディアとして研究し、現在に至っております。

さて、本学会では先述の通り「メディア」の定義を多様な「媒体」としています。「言葉」、「文字」、「楽譜」、「身体表現」、「絵画や写真」、「映像」、「楽器」、「ICT機器」等がそれにあたります。そしてこれら多様なメディアを通した音楽教育研究が本学会の使命となります。

会員数は決して多くはありませんが、会員それぞれが自らの切り口から様々なメディアを通した音楽教育を研究する質の高い学会であると自負しております。

本年も多様なメディアを通した音楽教育研究を、できるだけ多く公に発信できる学会として邁進していくことに力を注ぎたいと思います。

みなさまどうぞよろしくお願い申し上げます。

2025年1月

日本音楽教育メディア学会 第20回研究会のご案内

日時：2025年2月22日（土）

場所：葛飾シンフォニーヒルズ 別館 2階 ヴィジュアルルーム

13:00 開会 会長挨拶

13:05～14:35 口頭発表

14:45～16:15 **アフタヌーンティー** 

（お茶を飲みながら話題についてお話ししませんか？）

会場とオンライン（Zoom）でのハイブリッド開催となります

参加費：会員無料 非会員 1,000円（事務局に参加お申し込みください）

17:00～懇親会（青砥駅周辺予定）

事務局：jmsmeoffice@gmail.com



【口頭発表】（発表20分、質疑応答10分）

13:05 「ラジオ・テレビ黎明期における“子どもの歌”をめぐる概念を検討する」

葉口 英子（ノートルダム清心女子大学）

13:35 「サウンドスケッチの実践 ―生活や社会の中の音を聴く―」

八代健志（和歌山信愛大学）

14:05 「音楽理論のオンライン動画視聴による教育効果について」

小林田鶴子（神戸女子大学）

—休憩—

【アフタヌーンティ】

14:45～16:15

話題

「豊かな感性を培うための音楽教育とICT教育」



前回はハ長調について見てみたが、題材にしているシューマンの『ユーゲントアルバム』op.68 では、イ短調も非常に多く使われている。ハ長調が6曲であったのに対し、イ短調は8曲もあるのである。

イ短調といえば、J.S.バッハのプレリュードから、その性格を読み取ることができる。



1巻20番のもの悲しくひとりで呟くような下降する旋律線は、バッハのモノローグといえるだろう。また、ショパンのプレリュード第2番でも同様に、物語を語るような右手の旋律が印象的である。



それはまるで、まだ見ぬ運命を背負って、孤独に歩いていくような趣である。

シューマンでは、イ短調の楽曲の題名に、心情を連想させる形容詞が題名に挿入されているのが特徴で、文学に通じていたシューマンならではの発想が見受けられる。

第6曲「あわれな孤児」



第8曲「勇敢な騎士」、



第19番「小さなロマンス」



どれも、単旋律が目立つようなモノローグではないものの、ハーモニーの変化や、アーティキュレーションから、歌詞をつけて歌いたくなるような作品となっている。子どもたちの為に書かれたシンプルな楽譜の中に、イ短調の持つ虚無感が感じ取ることができる。

～子どもの歌の速さについて考える～

子どもの歌のイメージといえば、「明るい」「元気」「楽しい」という言葉があげられると思われる。確かに、子どもたちが歌う姿は、「元気に大きな声で、時には肩を大きくあげながら歌を歌う」、そのため、そのようなイメージを持ってしまうことは理解できる。

しかし、前回の連載でも取り上げたが、歌を歌うことは感性を育むという役割も担っている。殊に幼い子ども達は歌詞の持つ意味より先行して、曲の持つ「音楽を形づくっている要素」が耳より聴取される。

つまり、「聴こえてきた音」そのものの醸し出す雰囲気ですばりと子どもの心の中に着地し感性の育みに寄与する。

「速度の速い曲」か「ゆったりとした速度の曲」か、「優しい柔らかい音色」か「激しい鋭い印象の音色」かなどをはじめとする、「音色」、「リズム」、「速度」、「旋律」、「強弱」、「音の重なり」、「和音の響き」、「音階」、「調」、「拍」、「フレーズ」^{*}これらが音楽の印象を形づくっている。※小学校学習指導要領第2章第6節参照

さて、保育現場の現状では、このことを心にとどめて、子どもたちと歌唱活動している保育者はどのくらいいるのだろうか？私が実習巡回などで訪問する園の多くは、いずれの曲も速い速度で元気よく歌っている。うっかりすると、どれも同じ曲に聴こえてしまうような錯覚を起こしてしまう印象を持つこともある。

これは、自らが弾き歌うことに精一杯で、気を回す余裕がないことが多いという現状の現れなのであろうが、曲の印象に大きく影響する曲の速さは、聴取の要素として最も大切にしたい。

尚、曲の速さは、歌詞にも影響する。速い速さで歌うことは、子どもたちにとって発音のしづらさや、詩の情感を味わうことはできず、音まねで歌っているということになりかねない。

私たち保育者養成や教員養成で弾き歌いを指導していく教員は、これらを踏まえ、常に「子どもが歌う」姿を意識しながら指導にあたりたいと考える。

《新入会員メッセージ》 葉口英子

日本音楽教育メディア学会に新規入会させていただきましたノートルダム清心女子大学の葉口英子と申します。

この度、貴学会の一員となりましたこと、大変うれしく存じます。

私は、所属大学ではメディア産業論や広告論を担当しております。これまでの主な研究テーマは、近代から現代までの童謡・子どもの歌とメディアとの関係にみる変遷史です。とりわけ戦前からのラジオや戦後のテレビを介した子どもの歌に着目してきました。また、アニメーションと音楽との相乗効果について、アニメ映画やテレビCMを題材にした研究もおこなっています。今後の研究では、戦後のラジオ番組での子どもの歌の特徴を明らかにすることを計画しています。これまでの研究の知見を合わせて、放送文化と子どもの歌との関わりを歴史的に捉えることが大きな目標です。

貴学会がメディアと音・音楽の関係を踏まえた研究活動を推進されていること、またメディアの特性に注目する実践的な研究を目指されていることに、共感と期待を抱き入会させていただきました。これから研究会に参加する機会もあると存じます。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

《新入会員メッセージ》 大浦知加

このたび入会いたしました大阪千代田短期大学の、大浦知加と申します。

専門は、音楽を基本とした保育者養成における「総合表現、音楽療法、和文化教育」です。授業担当は「総合表現、こども音楽療育、音楽表現、ピアノ」、学内担当は、連携協定を結んだNPO団体と協同した学内こども支援ボランティア、音楽交流会、地域音楽療法訪問、学生音楽コンサート等をしております。

現在は、保育者養成における「和太鼓活動」、「環境にアプローチした方法で音を表現する」、「音楽と人形劇」、「音楽療法」、幼児教育における「STEAM教育」の教育的効果を検証する実践研究を継続中です。こちらでは、「環境にアプローチした方法で音を表現する」、「幼児教育におけるSTEAM教育」の実践研究報告をできればと願っております。

大阪在住ではあるのですが嫁ぐまで東京在住であり、昨年の研究会に参加させていただいた時の、武蔵野音楽大学、大阪教育大学大学院時代に繋がる先輩がいらっしゃる雰囲気と、音楽メディアに関する発表に興味を持ったことから、入会させていただきました。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

会員掲示板

2台のピアノ＆ヴァイオリンでお届けする アンサンブルへの誘い ～林麻由美と仲間たち～



林 麻由美 ピアノ 大石 あかね ピアノ 堀越 弘美 ピアノ 高橋 靖代 ピアノ 樋口 菜穂美 ヴァイオリン

2025年2月24日（月・休）
高崎芸術劇場 音楽ホール
14:00開演(13:30開場)

【プログラム】

モーツァルト ■四手のためのソナタ K381
リスト ■ドン・ジョヴァンニの回廊
クライスラー ■ブナーニの様式によるテンポ・ディ・メヌエット、ジプシーの女
ピアノ ■リベルタゴ
バーンスタイン ■ウェストサイドストーリーよりシンフォニックダンス 他

チケット料金（全自由席）

前売り:1,000円
当日 :2,000円

未就学児（4歳以上入場可） 無料

【チケットお取り扱い】11/24～

WEB

■高崎芸術劇場メンバーズ（登録無料）

<https://takasaki-foundation.or.jp/theatre/>

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

■チケットの購入

会費納入のお願い

2024 年度（2024 年 8 月 1 日～2025 年 7 月 31 日）の年会費の納入をよろしくお願いいたします。

《振込先》 ゆうちょ銀行 10510-91267401

他銀行よりお振込みいただく場合：

店名〇五八（読みゼロゴウハチ） 店番 058（普）9126740

ニホンオンガクキョウイクメディアガッカイ

※入会・退会に際しまして、又、会費についてご質問等ございましたら事務局までご相談ください

事務局だよ！

寒中お見舞い申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

「しんしん」「ちらちら」「ぼたぼた」「はらはら」「ふわりふわり」雪が降る様子を表すオノマトペは様々。

「♪ゆきやこんこ・・・」の歌詞でお馴染みの『雪』、この「こんこ」は、「コンコンと降る」という表現だそうですが、「来む来む（降れ降れ）」が語源とも言われているそうです。

今冬は昨年と打って変わって、日本海側を中心に大雪が続き、スキーヤーにとっては嬉しい年明けとなりました。一方、交通機関や住民生活には多大な影響を及ぼす大雪。降りすぎると「怖い」と、テレビ取材を受けた住民の不安の声を耳にします。豪雪災害に遭われた皆様には心より御見舞い申し上げます。